

市民新聞グループの土曜特集

週刊 見る

この特集をさらにご希望の方は、新聞販売店かお近くのコンビニでお求め下さい

ふるさとのお宝再発見 ③



本殿正面の向拝虹梁。五七の桐、枝葉、左右の木鼻は象、虹梁下の木鼻はぼたんの籠(かご)彫り

東堀正八幡宮本殿

意味深い彫刻

いったい誰が？

岡谷市にある東堀正八幡社の祭神は、八幡大神(菅原別尊)と宗良親王です。菅原別尊は最初の姿には不明な点がありますが、第15代の応神天皇4世紀後半(394年)とされています。母は神功皇后で、父は日本武尊の子の仲哀天皇。第16代の仁徳天皇(427年)は応神天皇の子です。神功皇后は謎に満ちた人物で、夫の仲哀天皇の急死を受けて、応神天皇を妊娠したまま冷たい石を抱いて出陣を遅らせ、新羅征討のため渡海、三韓(新羅、高句麗、百濟)を下したと伝えられます。出兵での対馬の祭壇には8本の旗を祀り、応神天皇降誕の折には8本の旗が舞い降りたとされています。八幡とはまさに8本の旗であり、神が降臨する依り代とされています。5〜6代の天皇に仕え、



武内(建内)宿禰が応神天皇を抱いている姿が描かれている北斎漫画

300年も生きてとされる武内宿禰が、応神天皇を抱いている姿は、北斎漫画や武者絵、舞踊りで見ることが出来ます。宗良親王は醍醐天皇の第8王子で、南朝の中心になって諸国を奔走、転戦し、1352年、東堀に御座所を設け滞在していました。御所や柴宮、尼堂など現在でも地名に名残があります。

八幡信仰は鎌倉時代、源氏が氏神としたことから信仰を集め全国に勧請され、現在の神社数は4万社とも2万5千社ともいわれ、最大とされています。東堀正八幡宮は本殿、幣拝殿、左右片拝殿の4棟からなり、幣拝殿は1766年に建造され、棟梁は東堀の山田清五良信金、彫物師は大隅流の伊藤儀左衛門光祿(1738-1813年)です。



鳳凰の背面に彫られている多数の桐の葉



虹梁上の葦股に彫られている8本の錦旗

正八幡宮は本殿、幣拝殿、左右片拝殿の4棟からなり、幣拝殿は1766年に建造され、棟梁は東堀の山田清五良信金、彫物師は大隅流の伊藤儀左衛門光祿(1738-1813年)です。



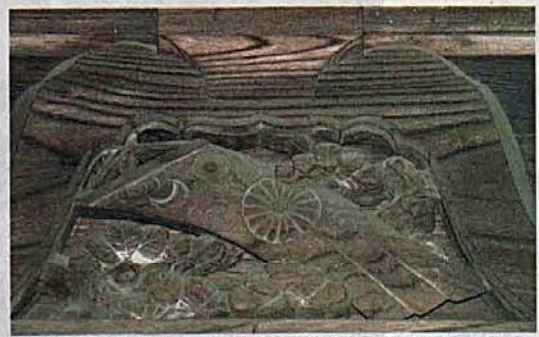
東堀正八幡宮の本殿。1741年の再建とされているが、棟梁や彫物師は不明



降り懸魚(三つ花)の六葉の左側に菊花。ひれの部分は菊の葉か？

次回は辰野町の蛇石(国の天然記念物)を紹介します。

本殿は一間社流造り。東西北を塀に囲まれているが、よく見えます。注目すべきはその意味深い彫刻です。まず正面の向拝虹梁の上の葦股。全体に鳳凰を彫り込み、鳳凰の背面には多数の桐の葉、虹梁には左右に五七の桐と枝葉、木鼻は象、「中国伝来の鳳凰は青桐の木に止まる、棲む」といわれ、桐の葉や桐の紋様を見事にあらわしています。本殿正面虹梁上の葦股の彫刻は、8本の錦旗をなびかせています。この立体感ある意味深い彫り様も実に見事です。本殿左面の葦股は松葉の中に燦然と翻る錦旗、錦旗の上部は日月紋、中央には十六弁菊花、右側の葦股には梅花の中に翻る錦旗、錦旗の上部は日月紋、中央には十六弁菊花が彫られている



本殿左面の葦股錦旗。松葉の中に燦然と翻る錦旗、錦旗の上部は日月紋、中央には十六弁菊花が彫られている



本殿右面の葦股。梅花の中に翻る錦旗、錦旗の上部は日月紋、中央には五七の桐紋

昨年、基礎や土台が傷んできたため修理をし、浜縁や土台がきれいになりました。遠く遙かに南北朝や神代の世界に思いを巡らせ、中山道や初期中山道の神の木、尼堂墓地の水田徳本の墓、五兵衛せきの水音を聞きながら、明治に3人の大臣を輩出した渡辺家、彌林山平福寺、植生豊かな柴宮の森を散策すれば、悠久の時の流れを感じるひとときが与えられるのではないのでしょうか。

本殿は一間社流造り。東西北を塀に囲まれているが、よく見えます。注目すべきはその意味深い彫刻です。まず正面の向拝虹梁の上の葦股。全体に鳳凰を彫り込み、鳳凰の背面には多数の桐の葉、虹梁には左右に五七の桐と枝葉、木鼻は象、「中国伝来の鳳凰は青桐の木に止まる、棲む」といわれ、桐の葉や桐の紋様を見事にあらわしています。本殿正面虹梁上の葦股の彫刻は、8本の錦旗をなびかせています。この立体感ある意味深い彫り様も実に見事です。本殿左面の葦股は松葉の中に燦然と翻る錦旗、錦旗の上部は日月紋、中央には十六弁菊花、右側の葦股には梅花の中に翻る錦旗、錦旗の上部は日月紋、中央には十六弁菊花が彫られている

妻面中央の懸魚の左右のひれ(魚の鰭)のようになっているのでこのように呼びます。部分に菊花をあしらひ、さらには降り懸魚の部分にも上側に菊花が彫り込まれています。ひれの一部分が欠けているのは残念ですが、272年の歳月で風雨にさらされ、彫りが減退し判別しにくくなっているのは心配です。このようにすべてを知り尽くした彫刻師、差配したのはいったい誰でしょうか。後に完成した幣拝殿が高島藩作事方の彫刻であることや彫刻の特殊性から高島藩が深く関わっていたと考えられますが、果たしてどうでしょうか。

1180(1239年)が、このほか菊花を好み自らの印として愛用したとされ、その後の天皇も継承して十六八重表菊紋が皇室の紋として定着、1869(明治2年)の太政官布告で正式に皇室の紋とされています。桐紋は菊花紋の替紋であり、日本国政府の紋章です。日月紋は菊花紋以前の皇室の紋で日は天照大神、月はその弟の月読尊とされています。明治維新の官軍の錦旗には日月紋が入っています。

1180(1239年)が、このほか菊花を好み自らの印として愛用したとされ、その後の天皇も継承して十六八重表菊紋が皇室の紋として定着、1869(明治2年)の太政官布告で正式に皇室の紋とされています。桐紋は菊花紋の替紋であり、日本国政府の紋章です。日月紋は菊花紋以前の皇室の紋で日は天照大神、月はその弟の月読尊とされています。明治維新の官軍の錦旗には日月紋が入っています。